

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	東京都
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	西東京市立 芝久保小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	0	12	18
児童数	61	57	72	48	61	47	0	346	

研究の概要

1. 研究主題

学ぶ力を育むための個に応じた指導の工夫
---------------------

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

<p>* 実施学年及び教科を選択した理由          全学年・算数          個に応じた指導が期待される教科であり、どの学年も重要であるため。          ・2～6年生 少人数学習集団による指導          単元や学習活動の形態により、習熟度別または均等割など2学級を3コースに分割して行う。          ・1年生 学生教育ボランティアとの指導          全学年学生教育ボランティアは関わるが、学級を分割せず担任と学生が共同で指導に当たる。</p>
--

(2) 年次ごとの計画

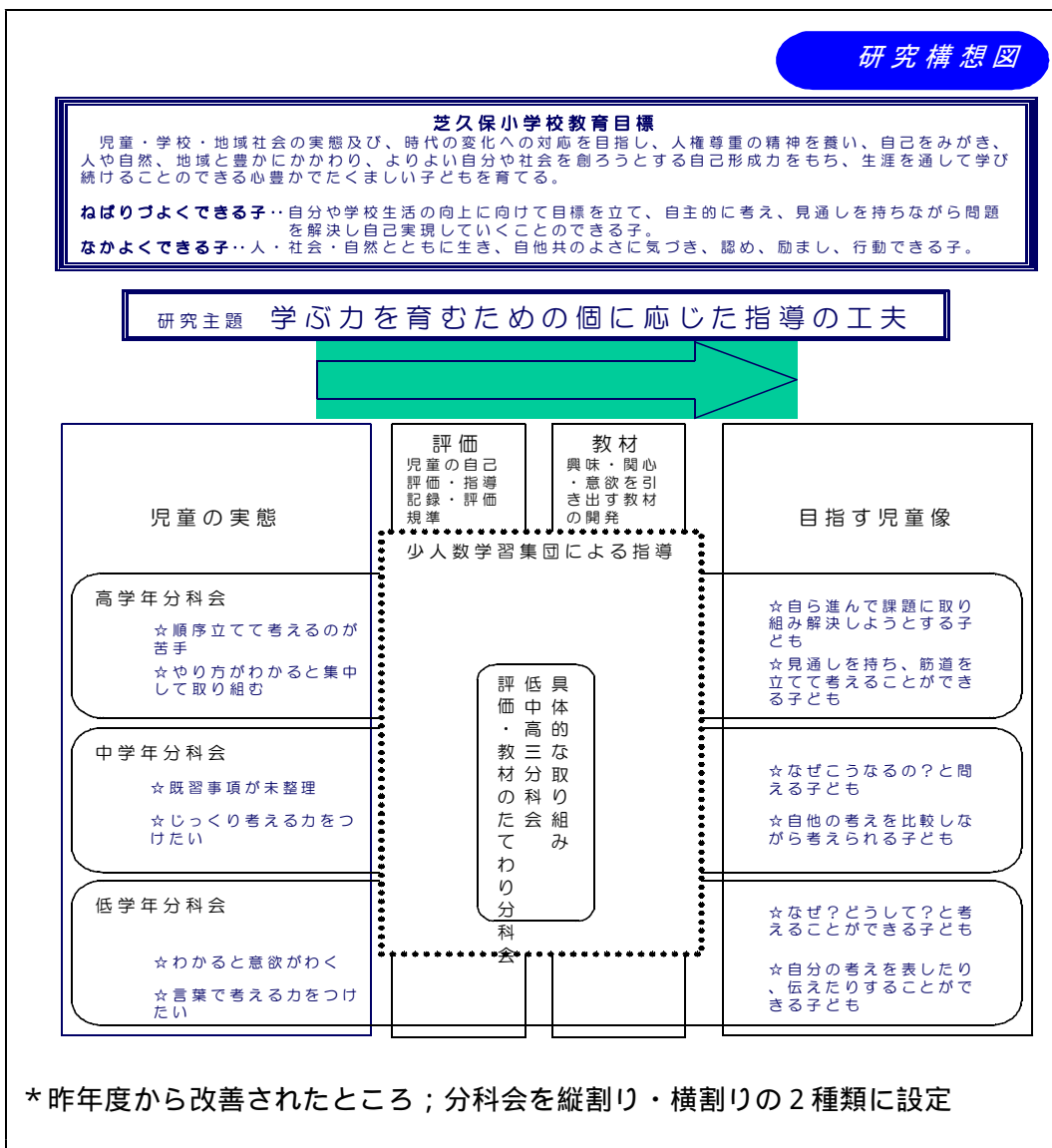
平成14年度	<p>テーマ          「学ぶ力を育むための個に応じた指導の工夫」          研究の見通し(仮説)          個に応じた指導を充実させることにより児童に学ぼうとする力が育つ          研究の内容・方法          1 研究組織          低・中・高学年の3分科会を設け、専科教諭及び校長・教頭も何れかの分科会に入り、全教師が研究推進にあたる。          2 研究授業の充実          学年または分科会単位で研究授業を計画し、保護者・地域にも公開した。          3 指導方法の改善          月1回全体会・分科会・推進委員会を開催し、授業の改善及び指導体制の整備を図った。</p>
--------	---

平成15年度	<p>テーマ          「学ぶ力を育むための個に応じた指導の工夫」          研究の見通し          個に応じた指導を充実させることにより児童に学ぶための力が育つ          研究の内容・方法          1 基礎・基本の充実          朝の時間(火曜日・木曜日の8:35～45)、モジュールの時間「いちごタイム」(月・水・金曜日の13:30～45)に基礎・基本の学習を実施し、基礎学力の充実を図る。          2 研究組織          全体会・分科会(学年別と評価・教材)・推進委員会を月1回計画し、分科会相互の連携を図るとともに、全体としての研究内容の充実を図る。</p>
--------	---

- 3 指導体制の整備  
 少人数学習集団による指導の実践を通し、習熟度別等の課題の解決や指導体制の整備を図る。

平成16年度	<p>テーマ          「学ぶ力を育むための個に応じた指導の工夫」          研究の見通し          個に応じた指導を充実させることにより児童に生きる力が育つ          研究の内容・方法</p> <p>1 基礎学力の検証          全学年を対象として基礎学力診断を行い、その定着状況の検証を行う。</p> <p>2 学力の追跡調査          中学校と連携し、卒業生の学力についての追跡調査を行い、本研究の成果と課題を明確にする。</p> <p>3 研究成果の普及          引き続き研究だよりの配布や研究授業の案内など通じ、他の学校にも研究成果の普及を図る。</p>
--------	---

(3) 研究推進体制



## 平成15年度の研究成果及び今後の課題

### 1. 研究成果

- (1) 少人数の指導  
児童の実態に即したコース別の指導計画を作成することにより、意欲的な学習態度がみられるようになった。  
自分にあった学習のペースで学ぶことができるので、自信もって課題に取り組むことができた。  
学習の流れの定着化をはかり、児童相互の発表の場をもつことができた。  
ノートやワークシートなどの書き方の素地指導に効果的であった。  
一人一人が発言する機会が多くなり、考えていることを取り上げやすくなった。  
「自己評価カード」を記入させることにより、授業の理解度や関心度が把握でき、指導方法の改善に役立った。
- (2) 教材・教具の工夫  
児童の実態に合わせた教材・教具の工夫により学習意欲が一層高まった。  
具体物を操作することにより学習内容の理解を深めることができた。  
学習集団を選択するための教材の工夫し、児童自身が自分に合ったコースを選ぶことができた。

### 2. 今後の課題

- (1) コース別学習では、指導計画を児童の実態によって見直しているが、まだ十分とは言い難い。
- (2) コース担当者間の打ち合わせの時間を週一回設定しているが、児童一人ひとりの学習状況など、情報交換が十分といえない。個々の児童の指導記録の工夫などが必要。
- (3) 友達の発表を聞いて自分の考えを発展させ、相互に高めあえるような「表現する力」の充実を目指したい。

### 学力等把握のための学校としての取組

単元ごとの理解度調査（学習前・中・後）を行うほか、児童への学習意識調査も定期的実施する。

### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- \* 研究会、説明会等の開催実績（日時、場所、対象、会の目的等）  
研究発表会 H15.11.28 3校時～ 西東京市研究指定校2年次とフロンティア中間発表として本校で実施。保護者・地域・市内各校や他地区からの教員合わせて約500名参加。
- \* 研究成果普及のためのHP作成、パンフレット作成等の実績及び今後の予定  
HPで研究発表会の概要紹介。保護者・地域・市内各校向け研究だより「いちごタイムス」の発行。（月1・2回刊）今後も継続予定。
- \* フロンティアティーチャーとしての研究成果普及のための活動実績  
西東京市研究主任会で研究概要について口頭発表 H16.1.22
- \* 研究成果の普及活動の成果（他校への反響等）  
基礎・基本の充実を図るため、本校式モジュールの時間を採用を検討する学校が出てきた。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】       15年度からの新規校       14年度からの継続校
- 【学校規模】               6学級以下                       7～12学級  
                                  13～18学級                       19～24学級  
                                  25学級以上
- 【指導体制】               少人数指導                       T・Tによる指導  
                                  一部教科担任制                       その他
- 【研究教科】               国語                       社会                       算数                       理科  
                                  生活                       音楽                       図画工作                       家庭  
                                  体育                       その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有                       無